

1. 評価対象事務事業		シート作成日	平成25年7月17日
事業名	学芸活動事業	担当課・係名	生涯学習課郷土資料館
総合計画実施計画事業 (認定番号・事業名)	—	事業番号	3
行革大綱実施計画事業 (細目コード・事業名)	—	事業開始年度	昭和63年度

2. 事業の概要

目的 (何のために)	資料収集・整理を行い、研究成果をさまざまな活動に還元し、また、あらゆるレファレンスに対応できるだけのデータの蓄積				
対象 (誰を・何を)	大磯町内外の利用者、地域情報、博物館資料				
内容	館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、考古・歴史・民俗・自然資料の調査研究・資料収集、整理分類、寄贈、寄託品の管理等を行い、これらを展示の一部に還元するとともに、収蔵資料目録の作成や研究成果の一部を発表				
根拠法令・条例等	大磯町郷土資料館の設置、管理等に関する条例施行規則				
執行体制	<input checked="" type="checkbox"/> 町職員実施 <input type="checkbox"/> 一部委託あり <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> その他				
	単位	平成23年度 (決算)	平成24年度 (決算見込)	平成25年度 (予算)	
事業費	直接事業費 (a)	千円	2,796	2,752	2,763
	国庫支出金	千円	—	—	—
	県支出金	千円	—	—	—
	起債	千円	—	—	—
	その他	千円	—	—	62
	一般財源	千円	2,796	2,752	2,701
	職員人数 (概算職員数)	人	/		1.10
	人件費計 (b)	千円	/		6,550
総事業費 (a)+(b)	千円	2,796	2,752	9,313	
事業費内訳 H 25 年度	共済費 41,000円 賃金 2,457,000円 旅費 20,000円 需用費 238,000円 原材料費 7,000円				

3. 指標値の推移

各種指標の実績と見込み、目標 (指標名)		単位	平成23年度 (実績値)	平成24年度 (実績値)	平成25年度 (見込み又は計画値)
対象指標 (対象者数等)	① 収集資料数	件	58	54	60
	②				
活動指標 (活動量)	① 執筆数	本	11	11	12
	②				
成果指標 (達成度等)	① 執筆数	本	11	11	12
	②				

4. 事務事業の評価

妥当性	・実施主体は妥当か	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> おおむね妥当 <input type="checkbox"/> 変更の必要あり <input type="checkbox"/> その他
	理由	学芸活動の成果をまとめた刊行物の発行、学芸補助業務のための臨時職員の雇用など。
妥当性	・実施手段は妥当か	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当 <input type="checkbox"/> おおむね妥当 <input type="checkbox"/> 改善の必要あり <input type="checkbox"/> その他
	理由	学芸活動の成果をまとめた刊行物の発行、学芸補助業務のための臨時職員の雇用など。
成果	・意図した成果が得られているか。	<input type="checkbox"/> 得られている <input checked="" type="checkbox"/> おおむね得られている <input type="checkbox"/> 得られていない <input type="checkbox"/> その他
	理由	現状の活動環境において、成果は概ね得られている。
効率性	・コストに対して効率的か	<input type="checkbox"/> 効率的 <input checked="" type="checkbox"/> おおむね効率的 <input type="checkbox"/> 非効率 <input type="checkbox"/> その他
	理由	現状の活動環境においての効率性は確保していると考える。
	・コストの削減等を図ったか	<input type="checkbox"/> 図った <input type="checkbox"/> 図られていない <input checked="" type="checkbox"/> 図る余地は無い <input type="checkbox"/> その他
	理由	日々の学芸活動が不十分となり、博物館の存在意義が不安定なものになる恐れがある。
担当課による評価	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当性、成果、効率性はおおむね良いが、改善の余地がある <input type="checkbox"/> B 事業の一部見直しが必要 <input type="checkbox"/> C 事業の抜本的な見直しが必要 <input type="checkbox"/> D 事業継続の必要性が低い（休止・廃止）	評価理由 臨時職員による補助もあり、充実した学芸活動の成果が認められる。

5. 改革・改善の方向性（平成 26 年度以降）

① 改革・改善への取り組み
館のテーマに沿った各分野の調査・研究活動等を継続すると共に、収蔵資料の整備を進め、リニューアル及び旧吉田茂邸再建を視野に入れた学芸活動を展開する
② 平成26年度に着手する事項
リニューアルを視野に入れた学芸活動及び収蔵資料整備の継続
③ その他（課題、調整事項等）
旧吉田茂邸再建との整合性

6. 平成26年度事業への取組み状況（改善内容等）

資料館資料15の作成、販売を行う。また、測量機材等の整備を進める。
